

② 挑戦



おかげさまで本年度も連載継続となりました。当初は、「私で大丈夫かな？」と不安でいっぱいでした。しかし、「これは記事にできそうだな」「もっと調べよう」という視点で日々過ごすようになり、気づけば3年目に突入です。「芸人↓小学校教員↓科学館職員↓大学教員」とさまざまな職を経験してきましたが、そこには常に「挑戦」がありました。



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

「失敗してもプラスになる」思考で

小学校教員を目指し、教育学部に進学しましたが、もう一つの夢である「芸人になりたい」と思い始めました。不安でしたが、「芸人で成功する」という思いと同時に、「失敗しても、芸人の経験は教師になった時に役立つ」と、どちらの結果でも明るい自分の未来を想像し、大学を休学し、芸人に挑戦しました。結局、芸人として大成はしませんでした。理科実験のプレゼンテーションの力を競い合う全国大会である「科学の鉄

人」や「所さんの目がテン!」の番組で企画された実験グランプリで優勝するなど、芸人時代の経験は教育者となった今に生かされています。「大学教員になりたい」という夢を持った時、仕事をしながら、夜間の大学院へ通学すること不安がありました。しかし、「大学教員になれず小学校教員を続けたとしても、大学院での学びは役立つ」と失敗してもプラスになることを想像し、挑戦することができ



ました。実際に、大学院修了後も小学校教員をしていた時期がありましたが、確実に学んだことを生かしながら子どもたちと関わっていました。この「失敗してもプラスになる」という思考で一番大きな挑戦をしたことがあります。「松竹芸能がお笑い芸人のスキルから、発想力

コミュニケーションなどを学ぶ笑育を教育現場で行う」という情報を得た私は、「元芸人の教育者として、何か貢献できないかな?」と考えました。いてもたってもいられなくなり、縁もゆかりもない松竹芸能の社長に熱い思いを書いたメールを直接送りました。「突然のメールは相手にされない」という思いもありましたが、「返信がなくてもメールを書く過程の中でお笑いとお笑いについて学ぶ機会になる」と考え、挑戦しました。結果、返信があり、「笑育」の監修を一年間させていただくことができました。この経験が、エデュテイメントにつながって

ます。振り返ってみると、どの挑戦も不安だらけでしたが、行動してみるとそれ以上にワクワク楽しい時間でした。挑戦する時に「失敗を恐れず」とよく言いますが、私は少し違って「失敗してもプラスになる想像ができるなら迷わず挑戦すべき」と考えています。そして、挑戦は楽しく成長する機会になります。4月は新しい事が始まる時、皆さんも何か新しいことに挑戦してみませんか?

